

北から南から

復興道路 三陸沿岸道路
「吉浜道路」(三陸IC
〜吉浜IC)開通

平成27年11月29日、三陸沿岸道路の吉浜道路(三陸IC〜吉浜IC、延長3.6km)が開通しました。

この開通により、急カーブや急勾配が続く峠道の国道45号を回避できるため、重大事故の削減、東日本大震災被災地域の早期復興に寄与することなどが期待されます。

三陸沿岸道路は、復興のリーダーシッププロジェクトと位置付けられ、一日も早い開通を目指しています。通常、吉浜道路と同じ規模の道路整備に15年程度の期間を要しますが、吉浜道路は事業着手から約8年、高架橋など道路本体部分の着工から約3年でスピード開通できました。

吉浜IC近くで行われた開通式典には、石井国土交通大臣、達増岩手県知事、戸田大船渡市長をはじめ地域住民代表など約300名が出席しました。



越喜来高架橋



開通式の様子

圏央道埼玉県区間全線
開通

平成27年10月31日、圏央道桶川北本IC〜白岡菖蒲IC間(延長10.8km)が開通しました。

この開通により、東北道久喜白岡JCTから関越道鶴ヶ島JCT間が結ばれ、これまでに開通していた区間と合わせ東名高速道路〜中央自動車道〜関越自動車道〜東北自動車道が圏央道で繋がりました。



桶川第二高架橋

第24回プレストレストコン
クリートの発展に関する
シンポジウム開催

平成27年10月22、23日に富山県民会館にて、「第24回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」(PC工学会主催・PC建協後援)が開催されました。2日間で講演者や技術展示参加者、一般参加者等を合わせて649名(昨年と同程度)が来場し、特別講演会をはじめ5つの会場で、全19セッション、165編の論文発表が行われました。

PC建協のブースでは、橋梁模型展示のほか、パネル展示8枚(北陸新幹線の代表的な橋梁6枚、PC発祥の地北陸2枚)、モニター上映(PCプレス vol.1008「PCのニューフェイスたち」掲載物件)が行われました。



各地で建設技術展示会開催

平成27年10月21日と22日の2日間にわたり、名古屋市中小企業振興会館において「建設技術フェア2015in中部」が開催されました。

「守る」安全な暮らしを支える建設ICTやロボット技術、「創る」未来を支える建設技術を開業テーマに、251社・団体から207の技術が出展され、来場者数は13881人のほりました。

PC建協では、学生のための建設技術フェア業界研究会にてPCの技術や業務内容の紹介が行われました。

また、平成27年10月28日と29日の2日間にわたり、マイドームおおさかで「建設技術展2015近畿」開催されました。

この技術展は、産学・官の交流を行うことで、これまで培われてきた建設技術のより一層の高度化や、より広範囲な技術開発の促進へとつなげ、各工事への新技術の積極的な活用を促すことを目的としています。

PC建協では3Fフロアでの技術展示ブースで、パネル展示および模型による説明が行われました。



建設技術展2015近畿



建設技術フェア2015in中部

設計技術者のための リカレント教育講座

(二社)建設コンサルタンツ協会九州支部主催で、平成27年10月16日に「設計技術者のためのリカレント教育講座」が開催されました。

この講座は実務経験10年程度の技術者を対象に、人材育成やスキルアップを目的として開催されたもので、33社57名の方の参加がありました。PC構造物に関する講座の内容は次の通りです。

- 『PC構造物の点検・補修・補強に関する留意点』
 - 『最新のPC技術の動向について』
 - 『PC押出し工法概要』
- PC建協九州支部保全補修部会
PC建協九州支部技術部会
PC押出し工法協会



登録PC基幹技能者講習 開催

(二社)プレストレスト・コンクリート工業協会では、平成27年度登録PC基幹技能者講習が、富士教育訓練センターにおいて、開催されました。

開催期間と受講者数は、第14回9月15～19日、34名、第15回10月13～17日、46名です。

また、9月16日には同センター代替工事起工式に出席された国土交通省北川副大臣が講習を視察されました。

- 講習の内容は以下の通りです。
- 基幹技能者一般知識
 - 基幹技能関係法令
 - 建設工事の施工管理、工程管理、資材管理その他の技術上の管理
 - 修了検定試験

